



# 健康コラム

保健 医療 介護 福祉

●飯南病院 ☎72-0221 ●来島診療所 ☎76-2309 ●保健福祉センター ☎72-1770

## 飯南 便り

コロナ、コロナ、コロナ……

新型コロナウイルスのオミクロン株が流行し、全国で「まん延防止等重点措置」が適用される自治体が増えていきます。飲食店などの営業も制限され、商売をしている方にとっては大打撃でしょう。今までにない新しい感染症が広がった場合に、世界がこのように反応するのだと、人生勉強になります。しかし、ウイルスの特性が変化しているとはいえ、当初と比べて分かっていることも随分増えているはず。もう自粛はうんざりです。新型コロナウイルスがあっても、今までと同様の生活をしたい。日頃の生活で少しでも楽しみを見つけれられるようにできるといいなと思います。

飯南町立飯南病院 感染防止対策委員長 松本 賢治

新型コロナウイルスがあっても、今までと同様の生活をしていくという事は、感染する危険を承知の上で生活するという事です。怖いと思われる方もいるかもしれませんが、生きていけば、怪我もするし、風邪もひきます。玉くじの1等に当たる人もいれば、雷に打たれる人もいます(実はこの2つの確率は同じだそうです)。日本では、インフルエンザに関連して亡くなる方が毎年約1万人おられるそうです。新型コロナウイルスに関連して亡くなった方は発生から今までの2年以上で約1万8千人です。オミクロン株に至っては、今のところ、さらに重症化や亡くなる方は少ないとのことです。単純に比較はできませんし、確率など関係なく身近な方が亡くなるのはつらいことですが、個人的にはインフルエンザと大きな差はないような印象です。危険を全くなしにして生活することはできませんので、危険を出来るだけ避けながら、一度きりの人生を有意義に過ごしていけるといいなと思います。

こんにちは  
中山間地域研究  
センターです。

## 二ホンザルの生息状況調査をしています

●中山間地域研究センター ☎76-2025  
<https://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

島根県では、14年ぶりに県内の二ホンザル(群れ)の生息状況を調査しています。前回の聞き取り調査では、県内(隠岐島を除く)に約49群れ、1,730頭の生息を確認。飯南町でサル(群れ)は確認されませんでした。今回の調査で、美郷町との隣接地でサル(群れ)が確認されました。

サルは、メスとその子どもを中心に構成された10~60頭程度の”群れ”を作り、広葉樹林を中心に生息しています。メスは自分の生まれた群れで生涯を過ごしますが、オスは6~7歳頃に自分の生まれた群れを離れると、単独の”離れザル”となったり、外の群れに合流したり、オスのみの群れを作ったりします。

サル(群れ)は、農作物に餌づくると繰り返し出没する原因

にもなります。農作物を防護柵などで守る対策はもちろんですが、サルを集落へ近づけさせないために、農作物の収穫残さなど誘引物となるものを適切に処理することが大切です。



サル(群れ)の生息状況を聞き取り

## 保健福祉センター 便り

### 感染予防のポイントを再チェック

## わたしがまもる みんなをまもる「マスク編」

新型コロナウイルス感染症対策で、日常的に着けるようになった「マスク」。マスクは、飛沫の吹き出し、吸い込みをブロックするため、感染予防にとっても効果があります。予防効果を高めるためにも、マスクの選び方や着用のポイントを今一度見直してみましょう。

### 選び方

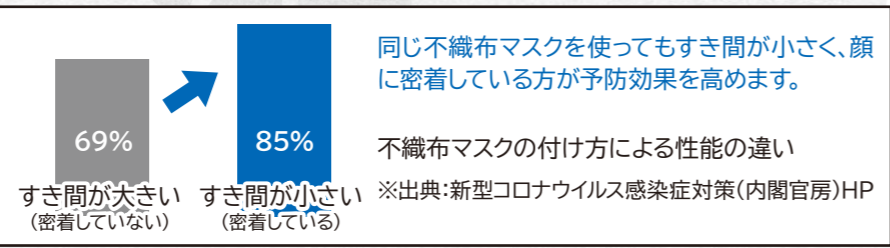
市販マスクの中では、布やウレタンのマスクよりも、不織布マスクの方が飛沫を防ぐ効果が高いです。できるだけ不織布マスクを選びましょう。

	不織布マスク	布マスク	ウレタンマスク
吹き出し飛沫量	80%カット	66~82%カット	50%カット
吸い込み飛沫量	70%カット	35~45%カット	30~40%カット

※出典:理化学研究所、豊橋技術科学大、神戸大のシミュレーション

### マスク着用のポイント

- 鼻、あご、頬をすき間なくフィットさせる
- 着けたら外側は触らない
- ひもを持って着脱



## 住みよいまちへ 集落支援員

町内5地区で活動する、地域とともに歩む「集落支援員」の活動を紹介します。

## とんぼらサロン「だんだん」開催1周年

令和4年1月未でとんぼらサロン「だんだん」がスタートし1周年となりました。1周年を記念して参加者にポイントカードをお配りします。参加回数ポイントの合計で、ささやかな記念品を贈呈する予定です。今後も工夫を凝らした活動を行いますので、多くの皆さんの参加をお待ちしています。



だんだんポイントカード

昨年は、各種楽器の演奏会&コンサートや春秋他のバスツアーなどを開催

## 地区ごとに防災活動をスタート

昨年7月の集中豪雨は農地や道路などに甚大な被害をもたらしました。日本各地で起こる災害は他人事のように感じていましたが、今回の災害を通して、地域住民が防災に関心を持ち、日頃の心構えや備えをする必要があると思いました。

頓原地区では、各地区の地形の違いや実情に応じた防災活動に取り組むこととし、地区に対してアンケートを実施しました。その結果をもとに、今後地区ごとに防災活動を進めたいと考えています。



花栗地区では、防災計画を見直し、防災ポスターを作成。ポスターは全戸に配布

